

暮らしと資産のコンシェルジュ通信

FPオフィス
Life & Financial Clinic (LFC)

2013年1月1日発行

Vol. 4、第1号

■ 経済・社会情勢に合わせた人生設計が重要な時代に

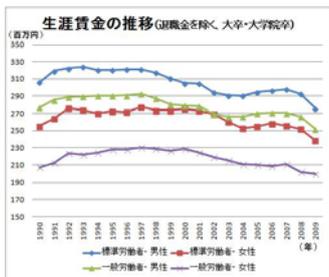


(中尊寺金色堂：平成24年10月撮影)

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

2012年の世相を表す漢字一文字は、「金」だそうです。選考理由としては、歴史的な天体ショー「金環日食」、オリンピックの「金メダル」、そして、財政赤字や生活保護の不正受給など「お金」に絡む問題が挙げられます。私たちの家計では、社会保障・税一体改革関連法案が8月に成立しました。2014年4月から消費税が5%から8%にアップし、2015年10月から8%から10%に引き上げられる見通しとなりました。年金などの社会保障制度についても、社会保障制度改革国民会議が設置され、制度改革に向けた転換期を迎えています。私たちの家計においても将来の「お金」に影響を与える、重要な年であったといえるでしょう。

■ バブル崩壊以降、生涯賃金は5000万円減少!?



長引く不況や、雇用体系・給与制度の変化によって、生涯賃金は下がっていると言われていました。FPとして相談業務を行っている、定年に近い世代と、これから世帯を形成している世代で、賃金格差や資産格差というものを最近強く感じます。「ユースフル労働統計2012」では、ひとりの労働者が生涯にわたって獲得する賃金(生涯賃金)を

2013年は、昨年12月の衆院選挙で自民・公明の両党が政権を奪還し、安倍晋三氏が首相に選出され、新体制の下でスタートを切ります。長引く不況からの「経済再生」、尖閣・竹島や安全保障などの「外交」、原発問題を含めた「震災復興」を重点課題として取り組むとしています。この難しい局面をいかに切り拓いていくのか、その政策にしっかり注目していきたいと思います。

昨年末にかけ、安倍首相による無制限の金融緩和とインフレ目標の引き上げの方針を打ち出したことを受け、円安が進み、株価が上昇しました。この現象だけを捉えると歓迎すべきことだと思えます。しかし、家計で考えると、インフレが進めば、やがて金利が上昇し、住宅ローンを抱える世帯では、ローンの返済負担が重くなります。また、景気がよくなっても、物価上昇以上に給料が増えるかも疑問です。給料が上がったとしても、税や社会保険料の負担は今後、重くなります。家計部門においても、経済情勢や税・社会保障などの制度を踏まえたライフプランがますます重要になるでしょう。

私たちLFCは、経済・社会情勢の変化にも常に目を向け、いち早くお客さまへの対応を行います。本年も、どうぞよろしく願い申し上げます。

FPオフィス Life & Financial Clinic
ファイナンシャル・プランナー
平野 泰嗣 平野 直子

◆お届けする内容◆

- 1 ・経済・社会情勢に合わせた人生設計が重要な時代に
・バブル崩壊以降、生涯賃金は5000万円減少!?
- 2 ・経済成長予測のキーワードは「人口ボーナス期」
・消費税増税後、年金制度はこう変わる
- 3 ・人生を後悔しないための計画「Final Planning」について考えよう!
・「予防」と「早期発見」の費用を予算化して、生涯医療費を下げよう!
- 4 ・2012年後半のLFCの活動報告

一定の条件のもとに推計しています。大卒男性の生涯賃金は、バブル期の1993年の3億2410万円をピークに減少し、2009年には2億7580万円となっていて、バブル崩壊後16年で、生涯賃金が約5000万円も下がったという結果です。

かつては、「一家の大黒柱として、夫が外で働き、妻は家庭を守る」という生活スタイルが主流でした。しかし、生涯賃金が5000万円も減少したとすると、結婚してマイホームを購入し、子どもを育て、老後は悠々自適という、人生すごろくのようなライフプランとマネープランを描くことができなくなったというのが現実です。また、同調査では、勤労者の生活満足度を表す、生活

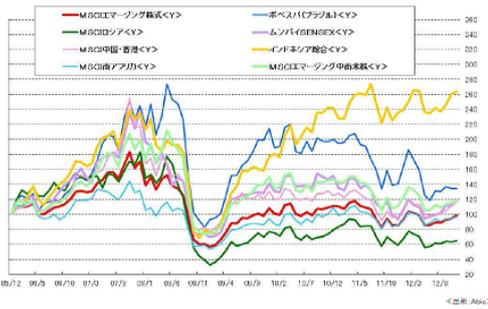
指標の推移を公表しています。それによると、「所得」が減少して、普段の「消費生活」の満足度は下がっているものの、「余暇生活」や「住生活」の充実によって、「総合」の満足度は変わらないという結果でした。

家計相談をしている中でも、生活は少し厳しくなるけれども、住み心地の良いマイホームを手に入れられて、住生活の満足度が上がり、さらに、ほどほどに家族とレジャーを楽しんだり、友人と余暇を過ごしたりして、全体的でバランスを取りながら幸せに暮らしている方が多いような気がします。共通点は、幸せな生活のために何か必要かが、明確になっていることです。皆さまにとっての幸せの条件は何でしょうか？



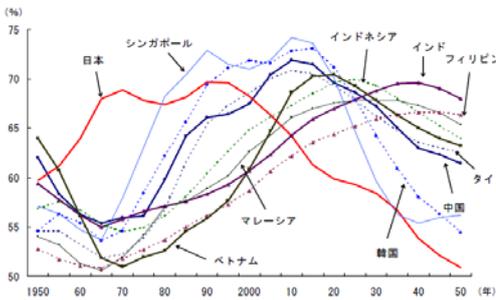
投資対象として注目の経済成長著しい新興国に投資をする際のポイントは？

●新興国株式指数の推移 (2005年12月末～2012年11月末)



※2005年12月末を100として指数化した、各指標の推移。月次ベース。

●アジア各国の生産年齢人口の割合



●アジア各国の人口ボーナス期の時期と長さ



■経済成長予測のキーワードは「人口ボーナス期」

投資の基本は、将来的に価値が上昇する投資対象物に投資をすることです。将来的に価値が上昇することが期待できる投資対象として、経済成長が著しい新興国の株式が注目されています。新興国株式指数の推移を見ると、赤いラインが新興国株式全体を表す指標で、その他各国別の指標は多少のバラツキがありますが、黄色のインドネシアを除いて、概ね、新興国株式全体の指標の動きに似ています。新興国の中でもBRICSと言われるブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカの株式指数が新興国全体の株式指数を牽引していると言ってもよいでしょう。

私たちは、一般的に「新興国＝経済成長」とイメージしてしまいがちですが、新興国をひとくりに考えてしまつては危険です。

そこで、注目したいのは、人口動態と経済成長の関係です。生産年齢(15歳以上64歳未満)の人口割合の多い国は、潜在的な経済成長力があるとされています。日本の生産年齢人口割合を見ると、1970年と1990年の2回ピークがあり、ちょうど高度成長期とバブル期に重なります。バブル崩壊以降は、生産年齢人口の割合は、減少の一途をたどります。

また、最近では生産年齢人口の割合に加え、「人口ボーナス期」という考え方が注目されています。人口ボーナス期を、従属人口指数(幼年人口(0～15歳未満)と老年人口(65歳以上)の合計の生産年齢人口に対する比

率)が低下する時期、人口負担期を従属人口指数が上昇する時期と定義します。

人口ボーナス期には、豊かな労働力があり、従属人口を扶養する負担が軽いことから、人口構成が一人当たり経済成長を押し上げる効果があります。逆に人口負担期には、人口構成が一人当たり経済成長を押し下げる効果がある、というのです。

日本の人口ボーナス期は、1930年に始まり、1995年まで65年間続きました。バブル崩壊後、景気が低迷し、失われた20年と言われていますが、人口ボーナス期が終焉を迎えたと考えれば、納得できます。

アジア各国を見ると、1970年代から人口ボーナス期に入っていますが、その期間は各国ばらつきがあります。中国・シンガポール・タイは、意外とその期間は短く、2015年に人口ボーナス期が終了します。特に中国では、一人っ子政策が採られた影響で、今後、急激に人口減少・高齢化が進み、社会保障制度の整備の遅れが、将来、深刻な問題になると言われています。その一方で、インドネシア、マレーシア、インド、フィリピンは、比較的長く、人口ボーナス期が続くことが予想されています。

私たちが資産形成をしていく上で、貯蓄だけではなく、投資は必要不可欠だと思います。長期的な視点で投資の戦略を練る際に、各国の人口と経済成長という視点も、考慮していただければと思います。

消費税増税後、年金制度はこう変わる！

■社会保障・税一体改革(年金分野)の論点整理

社会保障・税一体改革関連法案が8月に自民・公明・民主の三党協議に基づき、修正の上、法案が成立しました。昨年の衆議院選挙で、民主党から自民・公明党に政権が交代することになり、さまざまな分野で政策の見直しが行われていますが、社会保障・税一体改革は、三党合意に基づき、新政権に引き継がれる状況です。

社会保障・税一体改革では、消費税増税が何かと注目されがちですが、社会保障、とりわけ年金制度改革の行方も気になるところです。年金制度改革については、都度、新聞やTVのニュースで話題に上がりましたが、結局、何が決まったのか不明なことが多いです。そこで、年金分野の論点について整理してみました。

注目すべき点は、つなぎ国債による24・25年度の基礎年金の国庫負担2分の1と、26年度以降のその恒久化です。つなぎ国債の償還原資や26年度以降の国庫負担の原資も消費税増税に

よって賄われるのです。基礎年金の安定財源を確保して制度を維持するためには、消費税の増税は必要不可欠な状態になっているのです。

マネープランに影響する事項としては、遺族基礎年金の父子家庭への拡大や、短時間労働者への厚生年金適用拡大でしょうか。前者は、無条件に歓迎すべき事項です。後者は、家計を支えるためにパートやアルバイトで働きに出ている妻の年収や勤務時間に影響が出そうです。現在のところ、年収108万円、週20時間が適用の目安となっています。

国民年金の第3号被保険者や支給開始年齢の引き上げについては、昨年11月に設置された、社会保障制度改革国民会議の議論に委ねられています。消費税増税は、家計への負担増加は免れませんが、私たちが安心して暮らすための社会保障制度改革の財源として必要不可欠です。国民会議の議論に注目していきましょう。

社会保障・税一体改革(年金分野)の論点整理

■実現した事項

- ・基礎年金国庫負担2分の1の恒久化
- ・受給資格期間の短縮(25年→10年)
- ・産休期間中の社会保険料免除
- ・遺族基礎年金の父子家庭への拡大
- ・短時間労働者への厚生年金適用拡大
- ・厚生年金と共済年金の一元化
- ・年金額の特例水準の解消
- ・年金特例公債(つなぎ国債)による24・25年度の基礎年金国庫負担2分の1
- ・低所得高齢者・障害者等への福祉的給付

■検討課題

- ・第3号被保険者制度の見直し
- ・マクロ経済スライドの検討
- ・在職老齢年金の見直し
- ・支給開始年齢の引き上げ
- ・高所得者の年金額の調整
- ・国民年金1号被保険者の出産前後の保険料免除



人生を後悔しないための計画「Final Planning」について考えよう！

■ファイナル・プランニングのすすめ

見出しを見て、「ファイナル・プランニング」を「ファイナンシャル・プランニング」の誤植だと思われた方もいらっしゃるのではないのでしょうか？ここでは、「Final Planning」の話題について書きます。

最近「終活」という言葉が注目されています。終活とは、「人生の終わりのための活動」の略であり、人間が人生の最期を迎えるにあたって行うべきことを総括したことを意味する言葉です。語源を辿ると、2009年に週刊朝日の「現代終活事情」という連載記事によるものとされています。生前のうちに自身のための葬儀や墓などの準備や、残された者が自身の財産の相続を円滑に進められるための計画を立てておくことが挙げられます。葬式やお墓に関する話題は、聞きたくてもあまり聞けない内容でしたし、人生の終わりの話題は敬遠されがちでした。ただ、当初の「終活」は、お墓や葬式などの人生の後始末が中心的な話題であったかと思えます。

最近では、これに加えて、人生の残りの時間を自分らしく生きるために、人生全体を振り返り、住まい方や暮らし方などを見直すことも含まれています。

「終活」に関連した書籍として、「エンディング・ノート」が数多く、書店でみかけるようになりました。エンディング・ノートの中で特にお勧めは、NPO法人ら・し・さの「ラスト・プラン

ニングノート」です。特徴的なのは、三部構成になっていて、①ライフプランのページ、②資産のページ、③ラストプランのページとなっています。特にライフプランのページは、一人で実現するものではないので、人生の多くの時間を共に歩んだ、パートナーと書かれることをお勧めします。

そして、ラスト・プランニングノートを書く前に勧めたい本があります。この本は、LFCのセミナーでよく紹介させていただいていますが、緩和医療医の大津秀一氏が書かれた「死ぬとき後悔すること25」です。1000人以上の患者さんの最期を看取った著者が、「一人でも多くの方に、後悔のない人生を送っていただきたい。誰もが充実した幸せな生をおくり、穏やかな最期を迎えられたら良い。」という思いで書かれた本です。人生の最期に後悔することなく、「幸せな人生だった」と心の底から思えるために、今、そして、これからをどう過ごすのかを考える参考にしてみてください。

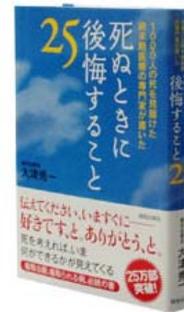
「Final Planning」は、人生の最期までの時間を、より自分らしいものにするための計画です。私たちLFCは、お客様の「Final Planning」づくりのお手伝いを通して、「自分らしい人生」の実現を全力でサポートをしています。「Final Planning」にご関心のある方は、ぜひ、LFCにご相談ください。

■おすすめのエンディング・ノート



●NPO法人ら・し・さ
ファイナンシャル・プランナーがつくった
「ラスト・プランニングノート」
定価：525円（税込）

■終活する前に読んでおきたい本



「死ぬときに後悔すること25」
大津秀一 著・致知出版社

「予防」と「早期発見」の費用を予算化して、生涯医療費を下げよう！

■生涯医療費は、一人2,300万円！

人生の3大支出は「教育」「住宅」「老後」と言われています。相談にいらっしゃる方に、将来の不安について尋ねると「医療費」と回答する人が意外に多いです。厚労省が公表しているデータによると、国民1人当たりの生涯医療費は2300万円（男性2200万円、女性2500万円）です。病院などで診療を受けた際に、原則7割は公的医療保険による給付が受けられ、残りの3割（70歳以降は1割）を自己負担します。生涯医療費のデータを参考に自己負担金額を計算すると、1人当たり500万円近くを家計から捻出する計算です。人生の支出の中で「医療費」もなかなか悔れない金額と言えます。

長寿化の進展や医療費の上昇に加えて、介護費用も考慮すると、家計費に占める医療関連費の割合は、ますます増加することが予想されます。老後の生活費に加え、医療費・介護費用は将来のお金の不安の多くを占めていますので、しっかり準備していくことが大切です。

また、医療費の不安を取り除くためには、お

金で備えること以外に、そもそも、病気になるための「予防」、そして、病気になった場合でも重篤な状況にならないための「早期発見」が大切です。

「予防」に関しては、東北大学の研究グループが行った興味深い研究があります。普通体重の人と過体重・肥満体重の人の40歳以降の生涯医療費の差は、男性197万円、女性380万円とのことです。歩行習慣も平均余命や生涯医療費にも影響するそうです。1時間以上歩く者と歩かない者を比べると、40歳男性の平均余命は前者が43.5年、後者は42.0年で1.5年の差があります。また、生涯医療費も1282万円と1357万円で、75万円の差があるという結果でした。適度な運動と体重維持が、生涯医療費を押さえ、寿命を伸ばすというのだから一石二鳥です。

「早期発見」については、健康診断や人間ドックの受診がお勧めです。会社勤めの方であれば、健康診断の受診が義務付けられて

います。コンビニのローソンでは、健康診断の未受診者の賞与を減額する制度を導入するそうです。自営業や専業主婦の方、会社を退職された場合、自主的な受診が必要です。各市区町村では、提携の医療機関で人間ドックを受診できる制度や費用の一部を助成する制度を導入している場合がありますので、確認してみてください。平野家でも、毎年、国分寺市の提携医療機関で人間ドックを受け、助成金を差し引いて、1人1万5000円の費用です。

お客様には、生命保険の加入に合わせ、人間ドック等の定期受診をお勧めしています。以前、いらしたお客様に再会した際に、年間予算に人間ドックの費用を盛り込んでいたので、大変、うれしく思いました。即、実践することは素晴らしいことです。「早期発見」のための人間ドック費用を年間予算に入れることと合わせ、「予防」のための健康維持費用も、年間予算に入れることができれば、更に良いですね。





京橋オフィス・相談室を開設。京橋マネーサロン開催しています！



京橋オフィスでセミナーを開催(7月)



日刊工業新聞(10/25)
「二世帯住宅のマネー&ライフプラン」寄稿



東北旅行・山寺(10月)



BIG tomorrow
2013年2月号(12/25)
「お金が貯まる夫婦、貯まらない夫婦」



老後の住まいの選択肢
スーパーJチャンネル(11月)



結婚10周年記念(11月)



早くちょうだいヨー

■2012年下半期のLFCの活動報告

2012年の後半は、あっという間に過ぎてしまいました。仕事面でもプライベート面でも、大きな節目となる出来事がありました。

●仕事面

仕事面で大きな出来事は、京橋オフィス・相談室の開設です。5月から準備をすすめ、7月から本格的に稼働しました。平日は、仕事帰りのお客様、土日休日は、都心・首都圏エリアにお住まいのお客様からのご相談に対応しています。また、新オフィスでは、「京橋マネーサロン」というブランドで、セミナーの定期開催を開始しました。夫婦向けのセミナーの他、気軽にお金のことが学べる「場」を提供していきたいと思っています。

取材関係は、立地が良くなったせいか、ご依頼が増えました。昨年12月25日発売の「BIG tomorrow・2013年2月号」では、久しぶりに夫婦揃っての誌面登場となりました。

国分寺オフィスの方は、今まで通り、多摩エリアのお客様からの相談対応をしています。今年も国分寺と東京(京橋)の二拠点で頑張っていきます。

●プライベート

プライベートでの大きな出来事は、11月10日に結婚10周年を迎えたことです。前半のサラリーマン生活から、気がつけば、夫婦でファイナンシャルプランナーとして独立して活動しているので、激動の10年であったと言えます。仕事面でもプライベート面でも、多くの方の支えがあって、なんとかやって来られたのだと思います。

さて、恒例の遅い夏休みは10月の初旬に取り、東北方面へ旅行に行ってきた。中尊寺、遠野、山寺(立石寺)と、松尾芭蕉の奥の細道を辿る旅となりました。電車と現地ツアーバスをセレクトした旅で、非常にのんびりした旅でした。松島にも立ち寄る予定だったのですが、悪天候の予報だったので、断念しました。2年前に松島を訪れた時も暴風雨で、あまり縁がないのかなと、思ってしまいます。松島の瑞巖寺を訪れたら「四寺廻廊」という巡礼コースが完成なので、いつか実現したいです。

2013年、仕事・プライベート共に良い加減に充実させ、後厄を無事に乗り切ります。

あなたらしい“幸せな人生”を送ること。それが私たちの願いです。

FPオフィス Life & Financial Clinic

〒104-0031
東京都中央区京橋 1-3-2
モリイテビル6F(受付4F) オフィス平野
電話 : 03-3231-6113
FAX : 03-6740-7663
メール : info@mylifeplan.net

発行・編集 平野 泰嗣・平野 直子



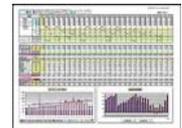
Web サイトもご覧ください
<http://www.mylifeplan.net>

●トライアル相談(1回 10,500円/90分)

【簡易シミュレーション付】

まずはお気軽にご相談ください。

トライアル相談では、普段から感じているお金に対する不安、家計改善、資産運用のヒントなど、どんなことでも回答します。私たちLFCに相談することのメリット、安心感を感じて頂ければと思います。



「30代夫婦が

働きながら4000万円の資産をつくる
考え方・投資の仕方」

明日香出版社から好評発売中です！

●ワークシート・Excelシート

【ダウンロード特典付き】

●ホームページ特設コーナー

<http://www.mylifeplan.net/book1.html>

●メールマガジン「働きながら4000万円の資産をつくる」

毎月20日発行(無料)しています！

登録は、コチラから

<http://archive.mag2.com/0000290147/index.html>

